

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072100284		
法人名	株式会社 山田檜木郷		
事業所名	グループホームやまだ桜の郷 あやめ荘		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地1		
自己評価作成日	平成28年3月8日	評価結果確定日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/40/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本位のサービスを提供するために、十分なアセスメントをとり、本人様本意のサービス提供に努めている。又、慰問などのボランティアによる催し物を充実させ、入居者様の喜びや楽しみむ機会の充足に努めている。その他、各施設行事やグループごとの行事などを毎月行い、ご家族様にも参加の呼びかけを行い、入居者様、ご家族様の満足を得るよう努めている。
医療の協力機関との連携をH26年度4月より、より強固な関係作りにも努め、居宅療養管理指導等により、入居者様の健康管理や安全の強化に努めている。
併設しているデイサービスへの自由な行き来が可能であり、機能訓練時に使用する器具等も充実して。又、個別の機能維持・継続訓練などにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設11年目のグループホームやまだ桜の郷は、自治会加入は実現していないが、地域の敬老会や文化祭などへの参加や見学、保育園児との交流が継続している。職員は、入居者と笑顔で穏やかな時を過ごせるように、ひとり一人の意思を尊重した支援に励み、重度化して外出もままならない入居者たちの笑顔を行事の工夫で引き出し、DVDに収めて家族とともに楽しんでいる。排泄や水分摂取量の把握で不明熱が出なくなったり、カリウムを減らした調理で再入院を繰り返していた入居者がこの1年は入院しないなど、かかりつけ医や訪問看護との連携だけではなく、職員間の密な声かけや連携で、情報を共有したケアの賜物である。又、入浴支援で帯状疱疹が見つかった入居者は入院した翌日に急逝され、職員たちはもっと何かできることはなかったかと振り返りを行っている。今後はターミナルケアの研修で知識やスキルを身につけながら、理念の自分らしく生きる姿を見守る支援の推進も期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **あやめ荘／やまだ桜の郷**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を4項目にまとめ、玄関、事務室に理念を掲示する事で常に職員の意識付けをしながら理念を共有し、実施に向けて取り組んでいる。又、Gミーティング時に理念の振り返りや研修などを必要時に行っている。	年度初めに年間研修計画と理念を明記した文書を全職員に配布している。入居者と笑顔で穏やかな時を過ごせるように、理念を活かしてひとり一人の意思を尊重した支援に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスとの交流を図る事により、デイ利用者様との交流や慰問という形で、毎月地元団体や保育園と交流を持ち、入居者と地域の繋がりを保つよう支援している。又、小・中・高等学校の授業の取り組み「職場体験」等受け入れている。当施設が飾り付けた、クリスマスイルミネーションは、地域の方々にも好評である。	自治会加入は実現していないが、回覧板を回してもらい、行事への参加の案内がある。敬老会や文化祭への参加や保育園との交流は継続し、夏に予定している猿回しの催しは園児にもぜひ見せてと依頼されている。	地域の方にホームの行事や避難訓練の参加を呼びかけて、地域交流の拠点づくりを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学が希望される方にはパンフレットをお渡しし認知症の方の理解を広げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は利用者家族、行政職員、ホーム代表、施設長、職員が参加し2カ月毎に開催している。家族からの意見・要望・質問等が出てホーム側からは現状・行事・運営に関する報告を行い意見交換の場となっている。自治会長や民生委員にも参加の声掛けを行っているが、現状参加に繋がっていない。	家族の要望で日曜日午前10時から、定期的で開催され、議事録を公表している。毎回数組の家族は参加していただくが、日曜日の開催で行政や民生委員の参加が得られにくいのが課題となっている。	地域密着型サービス事業者として行政担当課と共に、今後も地元の自治会長や民生委員の参加を働きかけられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に実績やケアサービス等の取組みを報告、相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。毎月の地域密着型連携会議に参加し、事業所の空き状況等の報告なども行っている。	市主催の地域密着型連携会議やケアマネ連絡会には毎月参加し、地域包括支援センターや訪問看護師等と、積極的に情報交換を行い、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の窓については、スロープがついておらず、転倒の危険性がある為、開閉に制限はしているが、玄関、中庭は開放しており、自由に行き来ができるようにしている。又、Gミーティング時に身体拘束についての勉強会を実施している。	転倒リスクにセンサーを使用するケースもあるが、ベットの柵は原則使用していない。外出傾向のある方については、見守りや連携プレーで職員が同行する方針で、玄関は施錠せず拘束のないケアに努めたり、家族の同意を得て、入居者の顔写真を貼付したフェースシートを警察署に届け出て、協力を依頼している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図るために、Gミーティング等での問題提起や職員間での話し合いの中で虐待が見過ごされる事がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の意識向上を図るために、G・ミーティング等で関連する資料を利用し学べるよう努めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットや資料を整備している。必要時対応できるように、年間研修計画に沿って学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に利用者ご家族と面接し話し合いを行い理解、納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当職員を設けてその都度、意見や相談を受けたり意見箱を設置し運営に反映出来るようにしている。	入居者の様子や笑顔のDVDを運営推進会議や家族を招いた行事の折に放映し、家族が要望や意向を表出する機会や場を設け、運営に反映出来るように取り組んでいる。月に1回、2名の介護相談員が来訪し、報告書が年1回届けられている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回G・ミーティングを行い意見提案等を聞く機会を設けている。代表者、管理者は職員からの意見を反映できるよう努めている。	新任の介護支援専門員や看護職員が就労し、月に1回のミーティングは、研修やケースカンファレンスも兼ねている。日頃の気づきや報告のまとめや対策が報告されている。すぐに対応することで次の手立てに進めるために、声の掛け合いが密になってきたと管理者は話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働ける様に施設長、管理者が主体となり業務改善を行い職員の管理上で把握しうる総合的意見をまとめ代表者へ提案することにより更なる環境・条件の整備に取り組むようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークや求人紙により職員募集を行っている。20代から60代まで幅広い年齢層の職員を配置しており、世代による職員の考え方等も考慮し、お互いが良い刺激となれるよう配慮している。	男女半々の職員が資格なしで採用されているが、シフトの配慮や受験費用の負担、資格取得後の昇給などもあり、今年度は7名が介護福祉士国家試験を受験している。人員不足の中、管理者は新人教育の重要性も認識しながら、休憩時間の確保や勤務時間の変更、希望休も柔軟に対応するなど、働き易い職場環境を作っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	G・ミーティング時に人権尊重の為、人権教育啓発活動の勉強会にて取り組んでいる。	理念の自分らしく生きる姿を見守りと謳い、本人の意思の尊重を掲げている。年間研修計画に必ず人権教育を位置づけ、運営理念をふまえた、言葉遣いや入居者の自己決定を尊重した支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Gミーティングに勉強会・研修を取り入れている。又、参加できない職員には後日、職員に個別の指導と資料を配布を行っている。施設外研修については、随時、受ける機会を持つよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	CM連絡会・地域密着型サービス連絡会等に参加し、他職種や他事業所との連携や交流を図っており、連携により得た情報を職員に周知しサービスの質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には利用者の性格・要望・不安等を把握するために、入居者様・ご家族様の想いを傾聴し、十分なアセスメントを作成する。又、入居時には安心感を確保するために職員が付き添っている。それにより、他の利用者との人間関係の形成にも繋がっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の要望を伺い、本人の要望や行政の指示を踏まえた上で、家族と相談し、本人や家族が安心して生活できるよう支援している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談の中で必要としている支援を見極め、他事業所のサービス説明も取り入れながら対応を行っている。現在、山田赤十字病院、吉原医院、稲築病院、有吉歯科、ひまわり歯科等との連携を図り、必要に応じたサービスの対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯等家事活動の参加を促し、利用者に生活の張りを持たせると共に、社会貢献ができるという自信がもてるよう支援している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進委員会や電話等により、家族と密に連絡を取る事によって、共に本人を支えていく支援を提供できている。またイベントや外出参加の声掛けをご家族様にも行い、参加も多く、本人との絆関係も良好となるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも電話ができる環境や、区の敬老会等への参加。外出・イベントなどでの家族・友人の参加により、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。また、母校への外出も行っている。	職員に馴染みの美容室に送迎の電話をかけてもらう入居者もいる。地域の行事に出かけて「あら久しぶり」とあいさつを交わす入居者もいるが、外出が減ってきたため、ホームの行事にお誘いすることを計画して、馴染みの関係継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事への参加により、利用者同士の会話が生まれ、孤独感を感じることなく生活できている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の情報提供や、本人及び家族の相談等、必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人及び家族に希望・意向を伺っている。また、日々の中で変化していく、本人の希望にも柔軟に対応できている。又、職員間での情報の共有に努めている。	顔写真付きのフェイスシートには聞き取りで得た入居者の情報が、アセスメントシートには本人や家族の意向や希望、今できることの情報に記載されている。できることの維持をしながら意向や希望に沿った支援に努め、新たな意向の把握に励んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を伺い、アセスメントシート作成することにより、職員が情報を共有できている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録日誌、看護記録を毎日つけ、職員が出動時に目を通すことにより、利用者の日々変化する情報を把握できている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を常勤させ、現場の介護員・利用者・家族・医療関係者等の必要な関係者と、密に連絡ができており、それぞれの意見を踏まえた介護計画が作成できている。	分かり易く個別性のある具体的なケアの実践やモニタリングが、計画の作成や見直しに活かされている。腹部に重篤な疾患を抱えた入居者は、付け替えのガーゼをはがしてしまうため、職員たちは毎日入居者の気をそらせたり、はり方の工夫など情報を共有しあって、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・業務日誌を記入することにより、職員に利用者の情報を共有させ、ケアプランの計画や実践に活用できている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスを活用し、機能訓練や、器具を使ったレクリエーション等、グループホームでは提供し難いサービスも提供できている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買物は利用者も同行し、振興券やお預かりしているお金で、買物ができるようにしている。また、区の敬老会等にも毎年参加しており、利用者が豊かな社会生活が送れるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望する医療機関や、当施設との関係がある医療機関等、複数の医療機関での受診を可能としている。	排泄チェックや水分摂取量のチェック、食事のカリウム摂取量を落とす調理などで、それまで何度も入退院していた入居者がこの1年間入院していない。医療依存度が高くなっているため、かかりつけ医や訪問看護との連携をしながら、入居者の健康管理に努めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護職員・医機関の看護師には、24時間電話での対応をお願いしており、早期での受診や、事故対応ができるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には細目に来院し、医療関係者との情報交換や、本人の状態を把握することにより、早期の退院や安心できる入院生活を送れるよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人と家族に説明を行っている。訪問診療で吉原医院との強い繋がりがあり、緊急時にはすぐに受け入れてもらえるようになっている。	今月帯状疱疹で入院した入居者が翌日急逝されたり、痰の吸引が常時必要になり特養に移られた入居者もある。ホームでぎりぎりまで生活してもらいたいとの思いの職員たちは、もっとできることがあったのではと振り返り、今後は、ターミナルケアの研修で知識やスキルを身につけたいと話している。	看取りに関する指針の作成とともに、研修を積み重ね、職員間での話し合いを重ねて看取りの体制を構築されることを期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回消防士、救命士による急変や事故の対応についての講習を受講しており、職員全員が救命技能を有することができるよう支援している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の昼夜想定での防火訓練を実施しており、スプリンクラーの設置、避難経路の確保等、利用者が安全に避難できるようにしている。また、避難場所として地域の協力により公共施設の使用も可能となっている。	夜間想定避難訓練を定期的に計画し、職員全員が体験している。職員から、マニュアルや手順書を読んでいたのにいざとなるとあわててしまったなど反省や、体験できてよかったと感想があった。消防署から、まずは火元から遠いところに避難することを最優先するようにと指導を受け、職員で共有している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に対し、生活を共にする者という立場で接しており、本人が最も居心地が良い環境となるよう利用者一人ひとりに対し、個別の対応を行っている。	外出傾向のある入居者は、見守りや同行している。居室やトイレが分かりやすいように、居室前に大きく名前を掲げたり、大きな字でトイレと表示しているが、トイレを探す様子入居者には職員が、調査日もそっと誘導していた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員都合になる事がないよう、常に自己決定において行動ができるよう声掛けをしている。また、利用者が思いや希望を表現しやすいよう、職員の業務にゆとりを持たせている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事入浴等は、時間に幅を持たせ本人のペースで生活できるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容については、本人の行きつけの店を利用されたり、出張美容サービスを利用している。入浴時の更衣については、本人が選ばれた服に着替えて頂くようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、味付けをされたりする方や、盛り付けのみの方等、利用者一人一人の能力により、できる範囲で行っている。また、食事は職員と同じテーブルで摂取されており、会話を楽しみながらの食事となっている。	職員が交替で献立や調理を担当し、食材の買い出しに入居者が同行したりしている。入居者は食材の下ごしらえや味付け、盛り付け等を、出来る範囲で手伝っている。職員と一緒に「焼うどん味付け丁度よかね」と、会話を弾んで楽しく食事している。食事介助の必要な入居者には、職員は声を掛けながら、其々のペースに合わせて介助している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、野菜、魚をバランスよく提供し、栄養の偏りがないようにしている。利用者の好き嫌いに関しては、本人や家族から情報を集め、代わりとなる料理を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力により一部介助を行う事となるが、基本的に自己で口腔ケアをい行って頂いている。また週に一回の歯科往診により細部の汚れを除去している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁のある利用者に関しては、個々の排泄パターンを把握し、こまめに声掛けをすることにより、トイレでの排泄ができるよう支援している。	左右いづれの麻痺にも対応できるようにトイレが2ヶ所設置され、歩行器や車椅子でも使い易く、折り畳みの介助用具も整備されている。排泄チェック表で一人ひとりに合わせたトイレ誘導に水分摂取を合わせて支援し、不明熱が減ったと管理者は話している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、散歩等、適度な運動を行う事で、便秘の予防に努めている。また医師からの指示がある利用者には服用を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、希望があれば併設しているデイサービスの大浴場を使用し、毎日入浴できるよう支援している。	職員二人体制での入浴支援が増えている。お風呂好きの入居者が多く、会話が弾んでいる。気持ちよく入浴できるように、脱衣室は保温に配慮している。入浴支援で帯状疱疹を発見するなど、心身の状況を把握する場もなっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間居室は室温調整がされており、自由に行き来ができる為、利用者はその時々状況に合わせて休息ができるようになっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には毎月1回、服薬についてのテストを行っており、利用者が服用している薬についての理解を深めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業、喫煙、飲酒、カラオケ等、元の生活で本人が好まれていた事を、積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭は常時開放しており畑作業や洗濯物の収納、散歩等、思い思いに行動できるよう支援している。外出は入居者様の身体的なレベルの低下があり控えているが、代わりにカラオケ大会や鍋会などの催しを行い気分転換を行っている。家族の参加を促している。	「もう行かんでもいい」と外出が億劫になられた入居者が増えている。買い出しについて行く入居者もあるが、職員の「菜の花がきれいよ」の声とお天気に恵まれ、近場の菜の花見物に出かけている。桜の季節は庭でお茶やお弁当を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所保管としているが、本人の希望や能力により個人で保管している。事務所で保管している利用者也、希望があればすぐにお渡しできるようにしており、買い物や親族のお小遣い等、自由に使用できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は希望があれば、いつでも利用できるようしているが、電話に関しては頻度、時間帯によっては、後日に行って頂ける様本人と話し合い、家族の負担にならないよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外窓を大きくとることにより、日当たりも良く、四季の移り変わりを楽しめるようにしている。また、アロマを焚きことにより、不快な匂いを軽減させると共に、利用者にリラックスして頂ける環境を提供している。	全館バリアフリーでゆったりした造りで採光や室温が調整され、廊下やトイレ、浴室等は、手摺が左右に設置されて安心して移動ができる。共用空間には中央に食卓が設置され、雛飾りや貼り絵など季節感のある作品が掲示されている。畳敷きのスペースにはソファがおかれ、入居者同志の寛ぎの場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置しており、テレビ鑑賞されたり、休まれる等、利用者が思い思いに過ごせるよう支援している。また、玄関に設置している椅子では利用者の良いコミュニケーションの場となっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、利用者と家族に相談し、タンスやテーブル、仏壇等、これまで使用されていた馴染の家具を配置し、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	居室の入り口には花の名前と入居者の名前が大きく表記され、ゆったりした居室は歩行器や車椅子での移動も容易である。馴染みの家具や椅子、テーブル等が過ごし易く配置され、仏壇や筆筒の上に夫の遺影や家族写真があり、大きな掃き出し窓から、外の景色が見え、居心地よく過ごせている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用する場所や物にはわかりやすく表示している。時間がかかっても出来ることは見守りながら行って頂いている。		